

理科	課題分析	授業改善案等	改善状況
1年	<p>○経験・体験の不足 新型コロナウイルス感染症拡大により、規模を縮小したことで生徒が課題に対して経験や体験からイメージできない事象が増えている傾向にある。</p> <p>○思考・判断・表現 結果や調べ学習から次の課題について考えたり、内容をまとめて、自分の意見を述べたりすることに苦手意識を持っており、定着までに思考・判断をやめてしまう傾向にある。</p>	<p>○日常生活における教科との結びつきの構築 実験の簡略化やICT教材の充実化も必要であるが、まずは、生徒が疑問をイメージしやすいように普段よく見る現象や変化と結びつけて授業の導入を行ったり、少人数での実験展開ができるように教材開発を行っている。</p> <p>○思考・判断・表現 判断力や考察力の基礎となる知識の定着化を図るだけでなく、日常生活の中でその知識がどのように活かされているのか、どのような形で利用されているのかを考えさせ、実際に実験等で体験することにより、知識の利用方法・実践力を向上していく。</p>	
2年	<p>○経験・体験の不足 新型コロナウイルス感染症拡大により、規模を縮小したことで生徒が課題に対して経験や体験からイメージできない事象が増えている傾向にある。</p> <p>○思考・判断・表現 実験結果が予想と反したときや、実験により新たな発見があったときなど、考察しようと思わず、結果としてそのままにしてしまう生徒が多い。</p>	<p>○ICT教材の活用 実験が行えない場合も、クロームブックなどの様々なICT教材を活用し、映像をみせ、そこから結果の読み取り、考察をする流れを定着させる。同時に実験を小規模で行うための方法を考えるなど、教材開発を行っていく。</p> <p>○思考・判断・表現 実験で用いるプリントやノートのチェックを行い、生徒が何を発見し、何を考えたのか把握したうえで、実験のまとめを行う際に生徒の考えを全体で共有する。疑問に対してその場で全員で考え、結論を導き出す。</p>	
3年	<p>○経験・体験の不足 新型コロナウイルス感染症拡大により、規模を縮小したことで生徒が課題に対して経験や体験からイメージできない事象が増えている傾向にある。</p> <p>○思考・判断・表現 地球の自転や公転に伴って天体がどのように動いて見えるかなど、空間的認識力や想像力が求められる事象を全く理解できない生徒が非常に多い。実際に太陽の日周運動や季節ごとの変化など体験していないということも原因となっている。</p>	<p>○日常生活と教科の結びつきの構築 実験の簡略化やICT教材の充実化も必要であるが、まずは、生徒が疑問をイメージしやすいように普段よく見る現象や変化と結びつけて授業を展開していく。</p> <p>○思考・判断・表現 判断力や考察力の基礎となる知識の定着化を図るだけでなく、自然現象に興味をもたせ、自主的に体験したり観測したりする実体験の重要性に気付かせる。授業でも、それを補う工夫をし、演習も繰り返していく。</p>	